

環境調査結果のお知らせ

令和8年8月24日15時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なシャットネラ属が最高で1 cell/mL確認されました。また、二枚貝に対して有害なヘテロカプサ・サーキュラリスカーマが最高で91 cells/mL確認されました。

光松漁場の10 m層で溶存酸素量が減少し、貧酸素水塊が発生しています。今後、この貧酸素水塊が表層付近へ拡大するおそれがありますので注意してください。また、表層における水温は32℃に達していますので、併せて注意してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度	水温	塩分	溶存酸素	シャットネラ 属	ヘテロカプサ・ サーキュラリスカーマ	アレキサンドリウム 属
	(m)	(℃)		(mg/L)			
A 光松 (3.4m) 【15:34】	0	32.4	31.5	9.3	0	0	9
	2	31.8	31.7	9.9	0	0	0
	5	29.9	32.4	5.1	1	91	0
	10	29.5	32.5	2.8	-	-	-
	底層 17	29.9	33.0	4.8	-	-	-
B 大鹿 (3.4m) 【15:39】	0	32.3	31.5	9.6	0	0	2
	2	31.3	31.9	10.9	0	1	6
	5	30.0	32.3	5.8	1	71	13
	10	29.8	32.7	4.8	-	-	-
	底層 16.5	29.8	33.0	5.2	-	-	-

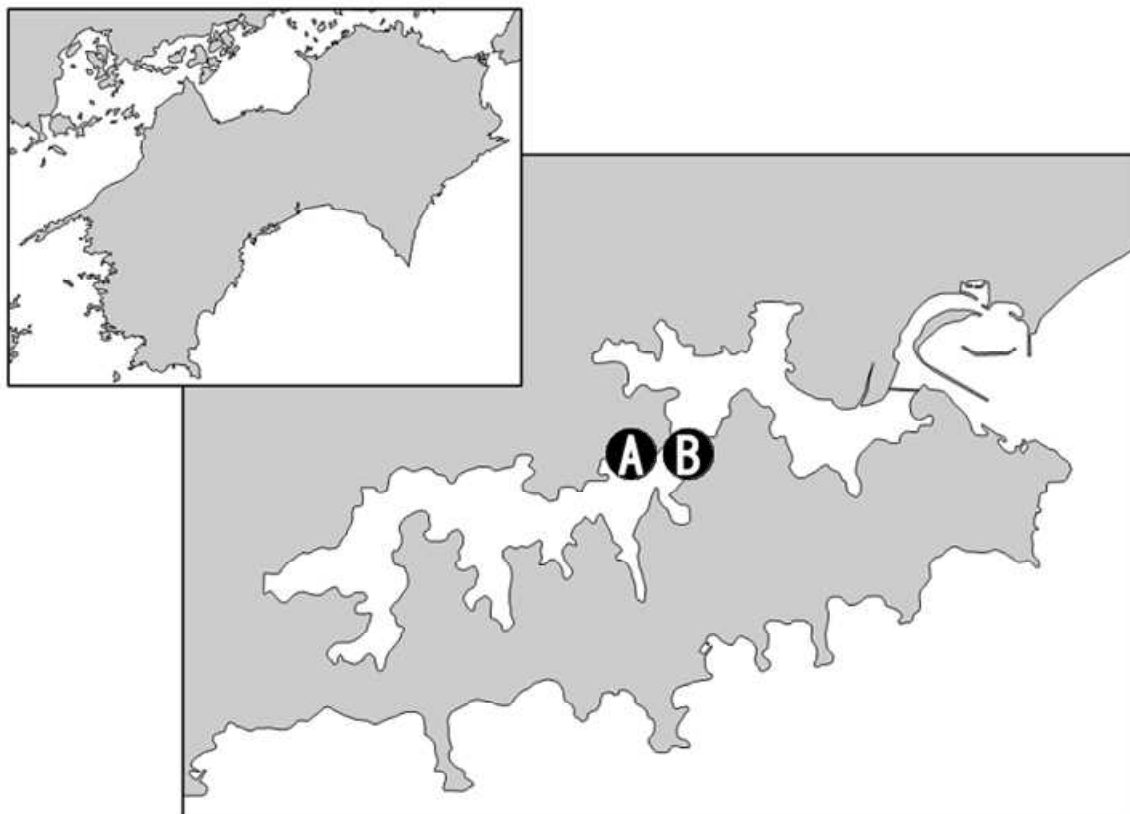
参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3
				浦ノ内湾
シャットネラ属	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月
ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月
アレキサンドリウム属	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死 並びに 二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



A: 光松

B: 大鹿

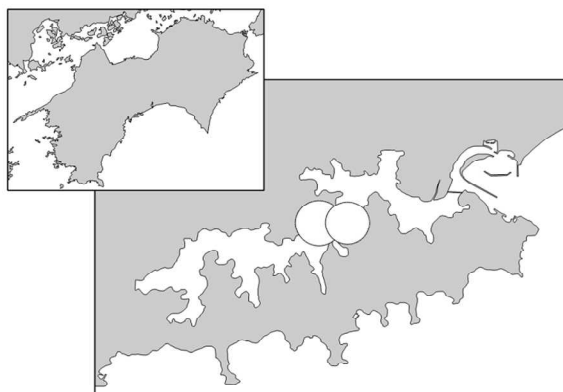
シャットネラ属

最大細胞密度



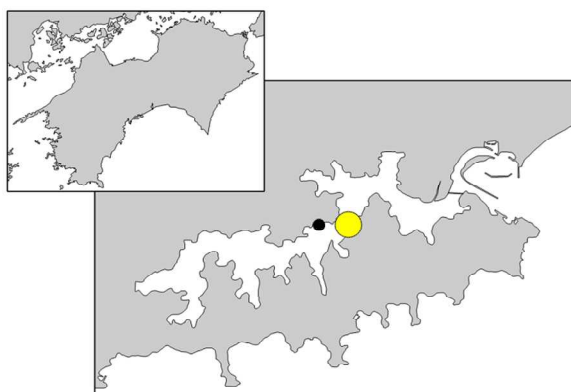
ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ

最大細胞密度



アレキサンドリウム属

最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ

円のサイズが大きいほど、プランクトンの数が多いので注意してください。

0
×

1~9

10

100

1,000

10,000

100,000

300,000

注意・警戒を示す円の色

黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。

基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

注意基準の値以上



警戒基準の値以上

